瀬戸内市の歴史を受け継ぐ文化・芸術の会報誌

ゆう

瀬戸内市文化協会
令和5年2月20日発行
第19号

糸あやつり人形劇団つきみ草　妹尾　薫　氏による　「三番叟」

各部の活動紹介

フォークダンスを楽しんで

私たちフォークダンスは1998年ふれあい学級で楽しく踊ろうと始まりました。その後ふれあい学級から独立し少しずつ新しいメンバーが加わり、毎週木曜日13時30分から、踊り始めます。

皆それぞれに高齢になってきましたが20数年踊り続けていますから、指導者の1曲ずつの簡単な説明の後、音楽に合わせて20曲ぐらい踊ります。1時間踊った後10分の休憩で水分補強をしてまた1時間次々といろいろな曲に挑戦しながら踊り続けます。この時間の充実して楽しいこと、皆さん笑顔にあふれ和気あいあいと、とても楽しい時間を過ごします。フォークダンスはフレイル予防にも体力維持にも効果があり皆さんの元気に圧倒されます。新しい友を募集します。どうぞ木曜日、長船町公民館に遊びに来て見てください。

長船フォークダンスクラブ（柴田 洋子）

日本画に興味を！

6月に3週間、瀬戸内市中央公民館において作品展を開催することができました。期間中、沢山の人に鑑賞していただきとても感謝しております。

日本画は、失敗すると、それぞれの絵の具の粒子が異なっているため、消しても下地の色がでることもあり、それが面白い効果を生み出すこともあります。

写生を大切にすることが必要です。モチーフがどんな環境で、どのような生態の中に根付いているか、空気や香りを感じながら愛情をもって対峙することです。さらに箔を張ったり絹本に描いたりなど、創意工夫することで生き生きとした華やかな作品が生まれます。奥が深いです。

恵まれた瀬戸内市の自然の中で、日本画の扉を開いてみませんか。

日本画（横林　佳代子）

「民話くらぶかぜっ子」です

私たちは「民話が大好き」「民話や語りの楽しさを多くの人に伝えたい」そんな思いで集まり、瀬戸内市・備前市を中心に語り活動をしています。小学校や老人会などでの語りボランティア、年1回の発表会や月例会での練習が主な活動です。

また、「岡山県語りのネットワーク」に所属し、交流会や立石憲利先生の講座などにて語り部としての研鑽にも努めています。

今年は、瀬戸内市文化協会会員として瀬戸内市民芸術祭に参加させていただき、語りの場をさらに広げることができました。参加事業「むかし語り～秋風にのって～」では助成金をいただき、秋の風情漂う会場演出のもと、心を込めて楽しく語ることができました。

これからも、民話や語りの楽しさを広めていきたいと思っています。

民話くらぶかぜっ子（岡部　敬子）

「つきみ草」25周年記念公演開催

瀬戸内市邑久町出身の、世界的人形師　竹田喜之助さんに惹かれて始めた糸操り人形劇ですが、昨年25周年を迎えました。

去る12月11日（日）に、中央公民館のホールにて記念公演を行いました。「三番叟」から始まり、「アラジンと魔法のランプ」「人形劇　備中神楽（おろち退治）」を上演。人形劇　備中神楽は、新見市の故仲田利治氏から未完成の人形を引き継いで完成させたものです。備中神楽という伝統芸能に、人形劇でかかわることができたのは、初体験でもあり挑戦でもありましたが、仲田氏と私達の思いを一緒に、糸を通して人形に伝えることができました。

これを機に、新見市の備中神楽と瀬戸内市の人形劇が、交流のきっかけになればと思うのです。

糸あやつり人形劇団 つきみ草（城山　雅恵）

瀬戸内市民芸術祭

Setouchi City Arts Festival

第二回瀬戸内市民芸術祭開催 9月4日（日）～12月25日（日）百十三日間の祭典です。去る9月4日に行われた開会式典は、午前の部と午後の部の豪華な開催となりました。午前の部は、オープニングアクトとして、書家、奥田雄山氏による揮毫の動画からはじまり、瀬戸内市のこどもの姿として、「せとうちこども合唱団ティンカーベル」が、手話を交えた歌声を披露、続いて、祝いの場での演目で知られている「三番叟」を妹尾薫氏（糸あやつり人形劇団つきみ草）が演じました。ステージのバックには、長らく使用する機会がなかった松の絵の幕が掲げられ、ひときわ、瀬戸内市の文化の格調を感じられる会場となりました。午前の部のメインイベントは、全国的に著名な地域芸術文化発展に貢献されているお二人に基調講演をいただき、さらに武久顕也市長を交えてのパネルディスカッションを行いました。テーマは「瀬戸内市の芸術文化に関する提言」。山出淳也氏は、別府という古い温泉町にアートを取り込んで新しいまちづくりに成功していった18年間のベッププロジェクトの活動の歩みの中から、「地域の文化芸術の活性化には、新しい考えや風を吹かせる人材が必要であり、かつ、地元民の共感や協力が必要である。関わる人口が増えること、その一人一人が活躍する実感がもてる事業を組み立てていくことだ。そして、町の魅力を外へ発信することで、国際的に参入する人、アーティストたちが増えることで、さらに町は、芸術を通じて発展する」とご提言いただきました。また、加藤種男氏からは、かつての牛窓国際芸術祭の話題から始まり、「瀬戸内市には、非常に多くの文化芸術歴史財産があり、これを活かすべきだ。牛窓国際芸術祭は、なぜ、続かなかったのか?について、内容は非常に優れていたが、この内容に地域、地元市民に共感、必要性、さらに継続意欲、継続力がまだ無かったという事であり、ある意味早すぎたということであったと考えられる。場所の提供だけでは、芸術文化は、発展しない。必然性が必要である。私は、今回「祝祭芸術」という本を出版したが、芸術の始まりには神仏をあがめた祭りというものがあり、この祝祭芸術の存在は、地域、コミュニティの再生や、新たな社会創造へアートプロジェクトとしてエネルギーを送り込むものである。瀬戸内市の今のタイミングで市民芸術祭が立ち上がることは、本当に良いのではないか。期待したい。」とのお話でした。パネルディスカッションでは、さらに、瀬戸内市がこれから文化芸術の街として発展していくには、官と民が力を合わせること、素晴らしい文化芸術歴史財産をどのように、互いに関わりながら生かしていくかを、しっかりと検証していくべきであることを、強く確認したというところ

でした。午後の部では、パフォーマンス公演として、4つのプログラムが披露され、大変感動的なものとなりました。まず、箏曲の披露で、文化協会会長であり、当市民芸術祭実行委員会委員長である三上澄明氏による演奏でした。続いて、今回縁あって、中村芝翫一門の歌舞伎役者中村橋吾氏が出演。現代社会問題を題材としたアート作品「平和成祈鐘」というコロナをテーマにした作品を、次のプログラムで演奏する情景描写ピアニスト山地真美氏とサプライズ共演の形で演じられました。観客は、本物の歌舞伎の演技に熱狂しました。次に、ソロ演奏の山地真美氏は、カンヌ国際映画祭で入賞した作品のテーマで、後楽園を描いた「鶴は舞う」とその場での即興を披露されました。最後のプログラムは、地元で35年の活動歴を持つ吹奏楽団「酔聖会ウィンドプラス」でした。コロナ禍で、練習もままならぬ2年間の中、今後の意欲も語ってくれ、明るく希望に満ちる演奏で締めくくってくれました。

瀬戸内市民芸術祭実行委員
（上野　洋子）

画「宙に咲く花」 森崎　昭生　　題字揮毫　奥田　雄山

人と人をつないで…

異分野交流「つなぐ…展」は、令和4年9月の第十回展を以って終了致しました。

文化協会に入会させていただき一年が経過したころ、瀬戸内市の同じ団体に所属していながら、他の分野は言うまでもなく同じ分野においても交流が無いに等しいということに疑問と物足りなさを感じました。分野を超え、それぞれの優れた才能や技能に直接触れ互いに刺激し合う「場」を作ることができないかと考え、この会を発足させました。

規約もない自由な会でしたが「同じ場所と時間を共有しながら一つの空間を作り上げていく」という原則は厳守しました。その過程で、自分と他者の作品（ライブを含む）を客観的に見ることによる気づきに期待しました。

この試みによる成果は、「異分野の作品が違和感なく共鳴しあう世界を体験できた」との来場者の声に集約されているようです。

これまでの参加者は、十部門・総勢60名を超えます。参加者の意識は、当初より柔軟になり異分野との横のつながりもでき、新たな活動も生まれてきているようです。

まだやり残したことはあるようですが、このような総合的な催しを脆弱な一つの会が催していくことに限界を感じ、また情性に流れることを恐れ終止符を打つことにしました。

構想から十余年。よくここまでやれたものだと驚いてもいます。参加者の熱意と、これまでの皆様の暖かいご支援の賜物と深く感謝致します。

つなぐ会　代表
（森崎　昭生）

瀬戸内市の文化祭風景

長船会場

11月12日(土)～13日(日)

3年ぶりに「蘇った文化祭」。しかし、我がグループ会員に関しても足腰の衰えを感じることも、また、慰安活動も皆無となっていた為、我々の「つたない所作」も少し寂しい3年間でした。この度、開催条件も整い、瀬戸内市3会場、それぞれ文化祭開催が可能となりました。

長船町会場は、以前に比べステージ発表は少しコンパクトになりましたが、空白の3年間の穴埋めが演者の蓄積された心意気により、概ね達せられた感がありました。

また、展示部門も専門家並みの作品も多く充実していると思いました。

来年も多くの文化祭来場者を迎え、安定した世相で制約の無い状態で楽しむことが出来ればと思います。

実行委員長
（藤原　章）

牛窓会場

10月15日(土)～16日(日)

牛窓町公民館で、3年ぶりの文化祭開催となりました。3年の間に随分活動団体の減少もありましたが、新しく子供達が加わり、活気あるステージ発表となりました。

久々の発表の場となり、展示・ステージ共に、参加者が活き活きと作品の説明をされたり、舞台の上で活躍されたりしておられるのを見て、とてもうれしく思いました。

16日のステージ発表の前には、いきいき学級で、大笑い一座による「牛窓伝説～牛転びの珍実（真実）～」の上演もあり、活気に満ちた牛窓会場でした。

実行委員長
（内藤　志保子）

邑久会場

10月22日(土)～23日(日)

コロナ感染拡大のため3年ぶりの開催となりました文化祭。邑久会場中央公民館では、岡山市出身の琵琶湖博物館学芸員 橋本道範氏による「巨大な荘園と郷の人々」と題して豊原庄の歴史に関する講演と、清水ゆきさんが率いるメンバーによる「ミニミュージカル・サウンドオブミュージック」の華やかなステージから始まりました。翌23日にかけて、演奏・舞踊・合唱など和洋を問わず国際色豊かな様々なステージ発表がありました。また、創作展としては、写真・絵画・川柳・短歌・木彫・押し花・絵手紙・パッチワーク・手描き友禅・手芸・革工芸など約二百点の力作が並び、着付けやパソコンの体験コーナー、オリーブの庭での茶席もあり、久々に市民の皆さんの文化芸術活動の発表で、公民館は活気がみなぎりました。

実行委員長
（上野　洋子）

歴史を訪ねて

虫明に伊木家のお茶屋が置かれたわけは？

寛永9年（一六三二）、因幡・伯耆の領主だった池田光政が、同族の池田光仲と入れ替わりに、備前国領主として岡山に転封されてきました。

その際、池田家の六人の家老が、備前国の周辺部に領地を与えられ、それぞれ陣屋町を築きました。岡山藩では、幕府に遠慮して、陣屋を「お茶屋」と呼びました。一般的には、将軍直臣の小大名や旗本の小さな城（政務を執った場所）を陣屋と呼んだため、陪臣である岡山藩の家老のものを陣屋と呼ぶのは憚られたためです。

伊木氏茶屋跡の碑

8代 忠福の木像

各地に配置されたお茶屋は、以下の通りです。

◇**虫明（伊木家・筆頭家老）**
知行3万3千石　岡山藩領の東部、播磨との国境を守りました。

◇**天城（池田家・次席家老・池田恒興長男元助の系統）**
知行3万2千石　岡山藩領西部、倉敷（天領）との境を守りました。

◇**周匝（片桐池田家・池田恒興四男長政の系統）**
知行2万2千石　岡山藩領北東部、美作との国境を守りました。

◇**建部（森寺池田家・池田恒興三男長吉の系統）**
知行1万4千石　岡山藩領北部　美作との国境を守りました。

◇**金川（日置家）**
知行1万5千石　旭川と宇甘川が交わっており、古くからの川湊があって、津山往来の中継地点でもあった交通の要衝金川を守りました。

◇**佐伯（土倉家）**
知行1万石　吉井川の川湊があり、片上往来や倉敷往来が通る交通の要衝佐伯を守りました。

11代 忠顺の墓碑

（瀬戸内市歴史まちづくり財団）

表紙

糸あやつり人形劇団「つきみ草」
妹尾　薫　氏による

三番叟（さんばそう）

三番叟は物事を始める前の足元（基）を固め、事業や舞台が繁栄し、成功するように祈る舞と言われています。

会員の受賞・入選

おめでとうございます

第9回日本美術展覧会（日展）
「入選」
奥田　利勝
「青い打ち掛け」（洋画）

第65回日本伝統工芸中国展
「入選」
黒井　博史
「鉄釉幾何文鉢」（陶芸）

会員募集

「瀬戸内市文化協会」の会員を募集しています。みんなで瀬戸内市の文化を育てていきましょう。

○お問い合わせ・お申し込みは
中央公民館内
文化協会事務局（22-3761）
へご連絡下さい。

編集後記

本号では、市民のための市民がつくる「瀬戸内市民芸術祭」を特集しました。

令和4年度

瀬戸内市文化協会役員

顧　問　森　陶岳　岡村三平
　　奥田佳峰　西浦子方丈
参　与　黒井千左
会　長　三上澄明
副会長　横山好美　上野洋子
事務局長　松川広己
監　事　森崎昭生　奥田悦代
常任理事
長谷川将彦（上野洋子）　立岡隆子
妹尾　薫（三上澄明）　藤岡善清
梶谷　栄　石光順恵　山下昭与
神戸淑子　奥田利勝　三木裕紀
稲荷　作（松川広己）　奥田雄山
西　岳海　刈屋長子　四十塚庄子
池畑富美子（横山好美）　下山公子
松尾俊介　野崎　泉　蟻正通弘
理　事69名